

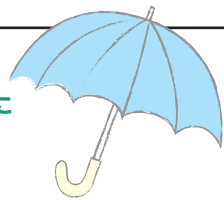
はなす

あなたは、はなすことが好きですか？
どんな時にはなしたいと思うでしょうか。

LIFESTYLE

雨が降ったらいつか上がるように

非行ををはじめとした相談を受ける
春野すみれさんのおはなし P2



REPORT

今月はお菓子づくりに
夢中の雄太くんが
プリンタルトに挑戦 P3



BOOK

まめまめしく働く ふたりの愛おしい日々

えんどうまめばあさんとそらまめじいさんの一日が描かれています。働き者で、仲よく暮らしているふたりですが、一つだけ困ったことがあります。何かをしても、すぐに違うことが気になって、どんどん別のことを始めてしまうのです。次々にいろんなことが気になって、やることが尽きません。最初にやろうとしたことを放ったまま、違うことを始めてしまうものです

から、慌ただしく忙しそう。でも、そんなふたりの生活は、なぜだかとても楽しそうなんです。

似たものの同士のふたりの会話は、特別なことは何も言っていないくても、今まで一緒に過ごしてきた時間や、そしてこれから同じようにずっと続いていくだろうふたりの暮らしを想像させます。一番最初のページに記された松岡享子さんの言葉がとても印象的でしたので、ご紹介しましょう。

「暮らす」ということが大事。いそがしく、たのしくね。まさに、この言葉から生まれたような物語です。



えんどうまめばあさんと そらまめじいさんの

いそがしい毎日

松岡享子 原案・文
降谷なな 文・絵
福音館書店 / ¥1,320

LETTER



通じ合えない悲しさの由来

君はバベルの塔って聞いたことあるかな？ 旧約聖書で、ノアの大洪水のあとに出てくるとても短い物語なのだけど、自分たちのために町をつくり、そこに天に届く塔を建てようとした人間たちの言葉を、神がバラバラにして通じないようにしてしまったんだ。言葉が通じないものだから、町と塔の建設は途中で終わってしまった。その町の名前はバベルと呼ばれたという物語（ちなみに、ヘブライ語で「バーラル」は混乱するという意味）。

僕はさ、同じ日本語を話していても通じ合えないことばかりなのだから、この時の神の怒りは、言葉をバラバラにただけじゃなくて、人と人の意思疎通の元にある何かを取り上げられたんじゃないかって気がしてるんだけどどう思う？ テレパシーみたいな以心伝心の能力をね。その時の名残があるせいで、僕たちは通じ合えないことを悲しく感じちゃうんだと思う。だってさ、人類が一つの言葉を話したとしても、混乱は解消されないと思わない？

バベルの塔
旧約聖書創世記11章1-9節

BOOK

差別と聞くこと、 話すこと

ひとつの詩を取り巻く3つの物語。朝鮮半島と日本の歴史が生み出した悲しみの連鎖の物語なのだけれど、過去のことではなく、今も僕たちの

中に流れ込んでくる差別が、ずっと浮かび上がってくる

ような一冊です。話してくれる人がいるからこそ、知ることができる。もしかしたら、世界ってそんなことばかりなのかもしれない。聞かないと知ることができない。だから僕たちは、自分のことを話そうとするのかもしれないよ。自分のことを知るためにさ。



空と星と風の歌

小手鞠るい 作 / 堀川理万子 絵
童心社 / ¥1,430

BOOK

メモを通して 会話する親子

お母さんと娘のスキップは、仕事や学校、家事や遊びに忙しくて、なかなか一緒に過ごすことができません。だけど大丈夫。毎日小さなメモで、お互いのことを伝え合っているから。



ふたりにとって、メモはただ用事を伝えるものじゃなくて、毎日出すお手紙みたいな。今日あったことや、嫌なこと、うれしかったこと、メモを通したふたりの会話からは、忙しくても、確かな親子の絆を感じさせてくれます。



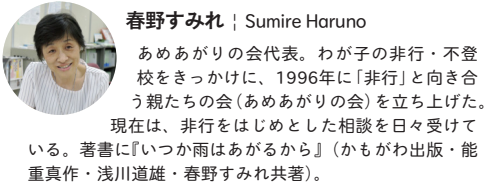
いってきます

エミール・シェール 作
チン・レイ 絵 / 野坂悦子 訳
化学同人 / ¥1,980

LIFESTYLE

雨が降ったら いつか上がる ように

文・写真 春野すみれ



春野すみれ | Sumire Haruno

あめあがりの会代表。わが子の非行・不登校をきっかけに、1996年に「非行」と向き合う親たちの会(あめあがりの会)を立ち上げた。現在は、非行をはじめとした相談を日々受けている。著書に『いつか雨はあがるから』(かもがわ出版・能重真作・浅川道雄・春野すみれ共著)。

私は、我が子が「非行」などの問題行動をしてしまって、困って悩んでいる親たちが集う会を運営しています。もしかしたら、これを読んでいる人たちは、「えー、非行？ 関係ないわー」という人が多いのかな……なんてこと、ないですよ！ で、「はなす」って聞くと、やはり「話す」が頭に浮かびます。我が子が「問題児」と言われるようなことになったら、たいていはその行為をやめさせようと必死になります。でも無理。「うざい、消えろ」と言われ、学校からは「ちゃんと家で指導してください」、近所からは「吸い殻、困るんですけど」……。結果、孤立を感じるわけです。

親の会の名前は「あめあがりの会」。自立に向かうこの時期の子どもの反抗・いらだち・迷い・立ち止まりなどは当たり前の自然現象のようなもの。雨が降ったらいつか上がるように「やがて「晴れ」るよ」の思いが込められています。そんな親が集まって悩みや思いを話す場があります。ある日、初めてお嬢さんのことで来られたお母さんは、暗い顔で、絞り出すように切り出しました。「初めて話します。娘が警察に補導されました。全然反省してないんです。信じられません。死にたいです。これが終わったら飛び降りるビルを決めてきました。」

20人ほどの参加者は凍り付きましたが、その方のお話の後にも、それぞれが次々と大変な日々を話しました。ある人は涙を浮かべて

「学校から排除されてる。私は子どもの味方になりたい」と言い、ある人は少年院にいる息子さんの話をしました。そのお母さんにも、みなさんの話は届いていったようで、青ざめた顔に少し赤みがさしはじめ、閉じた目が開いていきました。そして、最後にこう言いました。「初めてここに来て、娘のことを話せて、みなさんの話も聞けて良かった。また来月、必ず来ます。」ああ、今日は飛び降りないんだ、とすごくホッとしました。本音を「話す」には、ちゃんと聞いてくれる人がいないといけません。そして、こうした対話を重ねていって、やがて子どもを「離す」、子離れを迎えられるようです。



LIFESTYLE



「はなす」を願う

文 伊良部由季子

イラスト 小高梨乃

「はなす」から最初に浮かんだのは「自分を表現する術」。自分の気持ちや考えを話すのは容易なことじゃない。「はなす」という自己表現には勇氣もある。自分が受け入れられていると感じられると、どんどん発想は生まれるし、言葉も豊かになる。人と話すことで発散されるし、自分の思考が整理されていく。逆により深みにはまってしまうこともある…。「はなす」って日常生活で当たり前に行っていることだけど、実はとっても高度な能力だと思う。

私は日々障害のある人や生きづらさを抱える人たちと関わっている。私たちの役割は目の前にいる当事者の権利を守り、意思決定を支援することである。障害の有無にかかわらず、一人ひとりがあたりまえに地域で心豊かに生活できる社会の実現を目指して、ソーシャルワークを行っている。私たちは本人と対面し、はなすことを通して困りごとやニーズを探っていく。障害のある人の中には「はなす」ことが困難な人たちもいる。「はなす」方法は、「口から音声言語として発する」だけじゃない。紙に書いたり、体や手話を使ったり、道具や機械を使ったり、たくさんある。表情などもその人の気持ちや状態を表すひとつのサインでもある。人と関わる仕事をしていると自分の発した言葉の責任や重みがそのまま自分に返ってくる。仕事を通して「はなす」ことの豊かさや大切さ、難しさを通貫している。はなすとは「対話」である。私は対話のできる人になりたい。子どもにも人にSOSを出せて、人と対話できる人になってほしい。それができれば誰でも、どんな場所でも人と繋がり合っていけるし、自分を表現して生きていけるから。自分の身近な人たち、家族や仕事仲間、友だちと「対話」していくことを大切にできる豊かな日々を生きていきたい。それって当たり前のようでそうじゃないから。「対話」は平和でないと生まれない。心に余裕がないとできない。はなせることの喜びを、対話のできる社会であり続けたいと願う。



伊良部由季子 | Yukiko Irabu

和歌山県出身・在住。魂の半分はうなんちゃん。社会福祉法人一妻会妻の郷で障害のある人たちと共に豊かな社会づくりを目指している。食べてしまいくらい可愛い子どもの笑顔にいやされ、「はなす」ことが通者になって立派な自己主張に毎日笑わせてもらっている。

LIFESTYLE



高2の僕が 今はなしたいこと

文・写真 恵太郎

中学生の頃から学校が楽しくなく周りの同級生とのギャップを感じていた私は、2022年夏から翌年の夏までの1年間、イタリアのローマに留学した。料理が好きでイタリアを選んだため、留学先ではミシュラン一つ星レストランでインターンをしたり、いろいろな国の人と友達になったり、現地のサッカーを見にいったりと、とても充実した1年だった。

今回の留学で私は35カ国以上の人と友達になった。その中で一番感じたことは、美味しい食事さえあれば、言葉はなくても世界平和は不可能ではないということ。



留学を通して、自分の料理で地球と、1人でも多くの人のことを幸せにできるようになることが私の夢になった。

私は留学前から、気になっている大学が2つあった。どちらも「分子ガストロノミー」という食材や調理法を科学的に分解して再構築するという学問を学べる大学で、イタリアとスペインに存在する。日本に帰国してから、いくつかの壁にぶつかった。大学はどこに行くのか？ 入試方法は？ 大学の推薦を受けるための評定は足りているのか？ しかし、私の通う日本の高校が指している「大学」は、いわゆる「日本のふつうの大学」の事。留学前から、海外の大学への進学に関しては先生方からのサポートは期待しないので、ほしと言われていたのでそこは問題ではないのだが、周りの同級生はそうはいかない。毎月のように模試の案内が来て、参加しない人だけ理由と共に学校に報告しなければならない。授業の内容も、だんだん共通テストの過去問や模試の過去問の解説が増えてくる。元々学校に行っている理由がわからなくなって留学したのだが、帰国してもそれは変わらない。今も私は、迷いながら自分のやりたいことへの道を探っている途中だ。私のことを応援してくれる人、これまでお世話になった人に胸を張れるよう、自分のやりたいことに向かってまっすぐ進んでいく。



恵太郎 | Keitaro

2006年生まれ。7歳の時に父の友人で寿司職人の方と出会い、それから料理人を志す。2022年夏から翌年夏までの1年間イタリアのローマに留学し、現地の料理学校に通いながらイタリアの生活を満喫。帰国してからは迷いながら日々生活中。恵庭グランマでイタリアコース料理「KEITALIAN」を不定期開催。デザインユニットK*を高校の同級生と組んでいる。

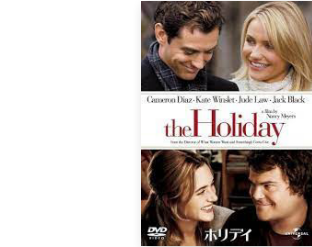
「はなす」本と 音楽と映画



英国王のスピーチ

トム・フーバー監督

エリザベス女王のお父様がこんなにも吃音に苦勞していたとは知りませんでした。実話の映画には重みと説得力があります。英国王の最後のスピーチには困難に直面する現代の私達にも通ずるものだと思います。(紺野良子)



ホリデイ

ナンシー・マイヤーズ監督

どこか誰も自分を知らない処へ。失恋をした女性2人が普段とは環境の違う場所でクリスマス休暇を過ごすお話。しっかりと「離す」失恋することの大切さと、誰かとまた出会い「話す」ことで前向きになれることを教えてくれる映画。(高濱梨紗)



ゼルダの伝説 風のタクト

Nintendo

キャラクターと話すことで冒険のヒントを得られます。片っ端から声をかけて、次にどこに行けばいいのか聞いたり、レアなアイテムをくれることや、気づけば3時間過ぎていたなんてことも…。今も新作が出続けているので、これからも楽しみたいと思います。(小杉遼河)



ドント・ルック・アップ

アダムマッケイ監督

僕は相手に配慮して相手がわかりやすい言葉で分かりやすいように話す大事さをこの映画で知りました。専門用語ばかり使っていると専門外の相手は何もわからないまま話が終わってしまうと思いました。(3A 長屋純貴)



約束のネバーランド

原作 白井カイウ・出水ぽすか

主人公であるエマは決して仲間を見放さず、仲間でもなくとも話し合うことで相手のことを理解しようとします。僕もエマに倣って身の周りの人を大切にし多様な考え方を受け入れ、多くの人へ歩み寄る姿勢を常に持ちたいです。(3B 郡知明)



モモ

ミヒヤエル・エンデ

「話す」といえば「聞く」がすぐに思い浮かびます。あいての話をほんとうに聞くことのできる人。モモはそんな人です。私もそんな人になりたいし、灰色の男に追われてあくせくするのはなく、ゆとりを持って生きたいと思います。(塚原治)



緊急取調室

テレビ朝日

厳かな雰囲気取調室の中で繰り広げられる容疑者との対話は、恐ろしさを感じるほどの大迫力。それぞれの想いが、言葉を通してぶつかり合う様子は、とても痺れます。(2A 高橋雄喜)



三度目の殺人

是枝裕和監督

もう死刑は確定と思われる男と、その男の担当弁護士の主人公。話していく度に変わる彼の供述。調査を進めていくにつれ、明らかにする複雑な人間関係…。事件の真実は？ 彼の言葉に真実はあるのか？ ラストまで考えさせられる作品です。(2B 管野雄太)



花束みたいな恋をした

土井裕泰監督

話し合うことが足りず、関係が悪くなっていく恋愛映画です。私はこの映画を見て話すこと、素になることの大切さを感じました。これは恋愛映画ですが、友達や家族など、自分が大切に想う相手にこそ「察して」と思わず歩み寄れたらと思います。(1B 野呂真央)



サヨナラ COLOR

SUPER BUTTER DOG

北星余市の3年生に向けて、心から贈りたい曲。この曲と一緒に放したい。フザけた曲の多いこのバンドが真っ直ぐにつくった曲。歌詞のひとつひとつが、ウチの3年生を前にすると、響く。けど、自分のクラスとなると、そうはいかへん。この曲の存在を隠したくなる。(本間涼子)



相席食堂

朝日放送テレビ

相席食堂は有名人が全国各地にロケに行く。そして地元の人たちと話し、触れ合う旅を千鳥がつつこむバラエティ番組です。僕はこの世で一番おもしろいものだと思います。これをみてリアルにお腹が痛くなるほど笑いました。(1A 大島拓己)



プリンタルのレシピ

2年B組 管野雄太

入学前に通っていたフリースクールで、初めて作った出来なマカロンを「めっちゃ美味しい!」と、いっぱい笑顔で食べてくれたことが、お菓子作りにハマったきっかけです。他にも、プリン、羊羹、チーズケーキ、バターサンドクッキー、ガトーショコラなども作ってきました。

1 細かく砕いたクッキー 120g と牛乳 30ml を混ぜ合わせたものを、クッキングシートをつけたケーキ容器 (12cm) に敷き詰める。

2 ケーキ容器にアルミホイルを被せて、予熱したオーブン 160度で 40分焼き、アルミホイルを取り室温に置いておく。

3 容器に卵 1個、グラニュー糖 20g、牛乳 110ml を入れてよく混ぜ、ケーキ容器に流しながら卵液を流し込む。

4 フライパンにグラニュー糖 20g、カラメル水 30ml を入れ、カラメル色になるまで煮詰め、色が変わったらか火を止めお湯 15ml 入れ混ぜる。

5 カラメルソースをケーキ容器に入れ冷蔵庫で 3時間冷やして完成。





cafe gattina(カフェガッティーナ)は、2006年12月にオープンしました。『ガッティーナ』とはイタリア語で『子猫』の意味です。猫と珈琲が大好きな私にはそれ以外の選択肢はありませんでした。1杯の珈琲とともに過ごす時間は人によって様々です。『1人でもふらりと立ち寄れるカフェ』といった位置付けでいたいと思っています。

さて、そもそも私が珈琲好きになり始めたのは高校生の頃で、それ以来珈琲は私の生活の一部となり欠かせない大切な存在となりました。就職をしたもののやっぱり珈琲の仕事がしたいという気持ちが大きくなっていきました。好きなことを形にするのは少しの勇気があれば出来ることかもし



COLUMN



毎年この時期になると「もう卒業？はやくない？」と思うのですが、高校3年間って本当にあっという間ですね。自分が高校生の頃は「1学期ですー一生終わらない！」と毎日嘆いていたのに、今となっては短い貴重な時間をもっと楽しめばよかったと思います。及川くん、奥ちゃん、優佳ちゃんの3人は1年生の頃から積極的に写真に写ってくれていたので、卒業してしまうのがちょっと寂しいですが、卒業前に3人で表紙を飾りたい！と言ってくれたので、お願いすることに。

ところが撮影当日、トラブルが発生！この日は3年生を送る会があり、時間がおして次の軽音ライブまで15分しかないとのこと。3人とも軽音部で、出番がすぐくる上に、ライブの前にはホームルームまであるらしい！時間をかけてじっくり撮るつもりが、これは

れませんが、それを続けるという難しさもあります。しかし、案外高いと感じる壁でも一つ一つこなしていくと、そうでもなかったことが多いのかなあと最近感じます。私たちが、日常生活を普通に送れる事はとても幸せなことで、それが出来ない事情を抱えた方々がたくさんいらっしゃいます。私にできることは何か？珈琲で力になれることはないか？と模索し、昨夏、初の試みで保護猫支援のイベントを行いました。NPO法人『猫のシェルターアリエル』と、保護猫への募金活動を懸命に行う『くわその商店』とのコラボにより実現しました。保護猫紹介のパネル展示をすることにより活動内容や理解を深めてもらったり、商品販売により売り上げの一部を保護猫達のサポート費用にあてました。また、売り上げ全額寄付のチャリティ珈琲を数量限定で販売したところ、完売するといった結果が得られ、まだまだできる事はあるだろうと手ごたえを感じました。これから目先の小さなことではあるけれど、小さな一歩はやがて大きな一歩につながることを信じて継続していこうと思っています。

 松尾 友美 | Yumi Matsuo
2006年12月 自家焙煎珈琲店オープン。『ガッティーナ』とはイタリア語で『子猫』の意味。店主は猫と珈琲が大好きで、むしろ猫の店長に雇われているといっても過言ではない。『ふらりと気軽に立ち寄れるカフェ』でありたいと思っている



長年過ごした北星余市を去る日が近づいている今、目を閉じると、映写機のフィルムが回転し、ここで過ごした日々が次々とスクリーンに映し出される。最も鮮やかに蘇るのは、やっぱり担任をしていた時と、そして放送局や生徒会顧問の時のことだ。学園祭の時に中庭で竪穴式住居を作ったっけ。校内のゴミ箱からペットボトルを1000本集めてペットボトルタワーも作ったっけ。予餞会の担任団の出し物の撮影のために、学年の先生方と猛吹雪の中で熟演し、そのあと風邪をひいたっけ。

生徒会顧問の時は連日遅くまで残って行燈をつくり、夜中に点灯した時には皆で歓喜したっけ。放送局の時は、局員たちと制作したドキュメンタリー映画が、全国規模のコンクールで大臣賞などを受賞し、審査員の大林宣彦監督や高畑勲監督から北星余市の取り組みを高く評価してもらえたことも貴重な経験だった。そして、どんな時も、向こう見ずに突っ走るズボラなボクをフォローするかのように、生徒たちがよく動いてくれた。彼らの優しさに何度も救われた。

赴任したばかりの頃はまだ若く、指導方針を巡って、生徒の親と衝突したこともよくあったが、結婚して2児の父となり、同じ親の立場になって初めて、あの時知る由もなかった親御さんの気持ちが今になってわかったこともある。当時は自分なりの正義感だけで、親心など想像できていなかったと、全くもって赤面の至りだ。

学校を支えてくれているPTA役員の皆さんもいつしかボクと同世代になり、青春時代に流行った音楽やテレビ番組の話などで盛り上がった。最近は授業を持っておらず、生徒たちと接する機会も少ないので、その鬱憤を晴らすべく、学園祭や軽音ライブに出演させてもらっていた。両手では数えきれないほど思い出がいっぱいの19年間、ここで過ごした日々はボクの宝物だ。今までありがとう！

妹尾克利 | Katsutoshi Seo
北星余市高校27期卒業生。民間企業、NPO勤務などを経て、2005年に数学教員として母校に赴任。2020年に教頭就任。在職中に大学院で博士号(Ph.D)を取得し、2024年4月より大学教員に転身。



辻田美穂子 | Mihoko Tsujita
大阪から移住した写真家。北星余市でのたくさんの出会いを通して人生が変わったひとりです。今年の春に余市からせたなに引っ越して子育てしながら、時々赤ちゃんを背負って撮影に出かけています。



REPORT



北星余市は 60周年を迎えます。

余市町の誘致により開校した本校も、来年度で開校60周年を迎えることになります。開校以来、その時代の社会問題から表出される子どもたちの受け皿となるべく日々向き合い続けて参りましたが、また一つの区切りを迎えます。そこで来るべき60周年に向け、2つの事業の準備を始めることにいたしました。

1つ目は60周年記念誌の発行です。40周年記念誌「しょげてんな」、50周年記念誌「居場所」に続く等身大の子どもたちの声を中心に、また教育関係者からも寄稿いただきます。2024年秋にお届けできるよう、現在鋭意製作中です。

そして2つ目は、60周年記念講演会「だったらこうしてみれば(仮)」として、赤平町の植松電機社長「植松努」氏をお迎えし、子どもたちに「どうせ無理」を「だったらこうしてみれば」と一人ひとりの可能性を信じ、より良い未来を拓く為の考え方をテーマにご講演いただく準備を進めております。

本校では子どもたち自身が本来持っている力や可能性を信じ育む教育に取り組んでいます。60周年を迎えるにあたり、子どもたちの未来を信じ大切にすることで、より良い社会につなげていきたいとの想いを実践し、活動を続けてこられた植松氏をお招き出来ることになりました。共に子どもたちを見守り育む保護者の皆様や子どもたちと一緒に耳を傾ける時間を共有できることを楽しみにしております。改めて初夏には詳細をご案内させていただきます。

60周年記念式典を 行うにあたって寄付のお願い

寄付方法



インターネットから
(クレジットカード利用)



学校法人北星学園のサイトからお手続きください。インターネットによる申し込みの場合は寄付申込書の提出は必要ありません。



それ以外
(現金、銀行振り込みなど)

下記電話番号までお問い合わせください。

0135-23-2166 (事務室)

教育講演・相談会ご案内

本校の教育についての講演会のあと、個別相談を実施しています。PTAやPTAOB、卒業生と直接お話することもできます。お気軽にいらしてください。

※開催時間は全日程13:30～17:00です。

5月26日	日	広島県広島市	広島オフィスセンター
6月2日	日	山梨県甲府市	未定
6月2日	日	茨城県土浦市	県南生涯学習センター
6月22日	土	北海道北見市	北見市民会館
6月22日	土	北海道釧路市	釧路市民文化会館
6月23日	日	北海道旭川市	旭川市民会館
6月23日	日	北海道帯広市	帯広市民文化ホール

QUESTION

おのざわ先生に きいてみよう



Q 大人になった今だから話せる、 子どもの頃の秘密はありますか？

A 小学生の頃の通知表には必ずといっていいほどに「落ち着きがありません」「忘れ物が多いです」というメッセージが添えられていた。また、予定などをきちんと把握する習慣もなく、先生に限らず、人の話をぼんやりと聞いていてちゃんと理解しようとしていなかったために引き起こされた出来事があった。

今でもそうかもしれないが、登校する時には集団登校の班というものがあり、1年生から6年生までがいつも同じ時間に集まり、一緒に登校することになっていた。しかし私の登校班はあまりに学校に近すぎた。なんと正門前、わずか3メートルの距離しかない。なんなら幼稚園より圧倒的に近い

のだ。そんな登校班に何の意味も見出せないまま迎えたのが、「集団下校」である。登校ではなく、下校、その時の私にはその意味が全く分かっていなかった。

帰りの会でもきっと先生はそのことを伝えたのだろうが、私は真っ直ぐ帰宅した。正門から3メートルの集合場所をあっという間に駆け抜け、3メートルほど先の自宅に戻り、いつも通りにおやつを食べていた。が、しばらくして異変に気付く、遠くから「小野澤君、1年2組の小野澤慶弘君～」と私の名前を連呼する声が聞こえてくるのだ。「?」「何?」と私は2階のベランダから学校を眺める。するとそこには異様な光景が広がっていた。おそらく全校生がランドセルを背負いグラウンドに並んでいるではないか。一瞬にして理解した。探されている。俺は探されている。そして待っている。みんなを待たせている。

次の瞬間、私は再びランドセルを背負い、すぐ目の前に開ける正門ではなく、わざわざぐりりと校舎裏のフェンスを乗り越え、裏口から校舎内へ、そして正面玄関から全校生の待つグラウンドへと駆け抜けた。

全校生がやっと帰れるとホッとした雰囲気包まれる中、「どこにいたの?」との先生の問いに苦しい顔で「トイレでうんこしてた」と答えたばかりに、しばらく私のあだ名は「うんこまん」になってしまったのは言うまでも無い。

REPORT

スキー授業に行ってきました

1年B組 熊野御堂健

僕は山梨県出身で山が近くにあり、中学までスキーによく行っていたので、今回のスキー授業が初めてではありませんでした。ですが北海道という神の雪質の環境で滑ることは人生でもほぼ初めてでした。それ以上に、今回は同じ1年生の友達と共に滑れてスキーに行くのがだるいなと思わず楽しみに行きました。今回行ったルスツリゾートは山が3つくらいに分かれていてすべてのコースを回ることではできませんでしたが、自分が普段滑っていた所とは違い非圧雪のコースが桁違いに良くだいぶ感動でき、自分たちが泊まったロッジもとても広く、同じロッジの人たちと楽しめました。そして今回だいぶやばいと思ったのは、初めてスキーに挑戦する友達が初日の昼間に足をつってしまい、ほぼレッスンを受けておらずコースは1回も滑ってなくて、その日のナイターと一緒に

に行ったらまだハの字もままならなく、滑れないので下まで歩いて戻ると言うくらいでしたが、その後も一緒に滑っていたらハの字で安定して滑れるようになり、最終日にはめちゃくちゃ滑れるようになっていたことがとても大感動でした！その子はこれからはボードをやるらしいけど、来年もスキー授業楽しみにしています。



INFORMATION



他学年と交流できる 生徒会ミニ企画！

後期生徒会執行部は着任するなり、学校行事を行うだけではなく、次々とミニ企画を行っていました。休み時間の間に空気イス対決をしたり、ジャンケン大会、ヨガをやっている時も。雪が積もっている時期にも関わらず、わざわざ中庭でじゃがバターならぬ、じゃがマヨ&焼きりんご祭？も。雪の上に焚き火台を用意して、「寒い!」と言いながらもみんなで待つのも、なかなか体験出来ない貴重な時間かもしれません。出来上がったら、みんな一目散に手に取り100個近くあったじゃがいもは見事に完売！冬休み明けには、お正月らしく書き初め大会や餅つきも行いました。こうした企画を通して他者との交流もうまれます。本校にとって大きな役割を担う生徒会執行部。3月で任期終了となり、4月からは新しい執行部へと変わります。

編集後記

はなした方がいいもの、はなさない方がいいもの。その区別が難しいけれど、バランス良く生きたらいいな～。何はともあれ今年度も何とか無事に発行することが出来ました。ありがとうございました！星しんぶん7年目に向けて改革したいと思ったり、(高崎麻美)

最近では冬の割には温かい北海道。道路は氷が多く、滑ってとても危険。みなさん雪道歩くのは慣れていますか？自宅に帰るのに、坂道の氷でツルツル滑る難関コースを通ります。毎日が試練。テーマははなすこと。私は、誰かにはなしたいと思う事をみつけた時はとても幸せです。(岡部春香)

